

守り抜け黒ボク大地プラン

北栄町 松井陽一

1 はじめに

(1) プランに取り組み規模拡大

平成 17 年に就農し、ブロッコリー栽培を中心に取り組んできました。栽培技術も徐々に向上し、年々規模拡大を行ってきました。しかしながら、規模拡大する上で様々な課題がありました。

そこで、平成 24 年に「穫れたてのブロッコリーを消費者に届けるプラン（がんばる農家プラン事業）」に取り組んだ結果、色々とあった課題も解消し、計画どおりに規模拡大することができました。平成 24 年の作付面積 7.8 ヘクタールから平成 27 年には目標の 10 ヘクタールに規模拡大することができました。

(2) 遊休農地を活用して規模拡大

遊休農地を借受けて規模拡大を行っていますが、遊休農地はほ場条件、特に排水の悪いほ場が多いため改善を図る必要があることから、事業によりプラソイラを導入し、排水性を改善して収量を向上させることができました。また、ハウスの導入により、規模拡大に対応した苗本数を確保することができるようになりました。

(3) 冷蔵庫と製氷機の導入により製品品質の向上

以前、特に気温の高い時期ですが、出荷したブロッコリーが市場で黄色に変色したり、腐敗したりなどと、売り物にならないと市場からクレームを受けることもしばしばありました。事業により冷蔵庫と製氷機を導入し、氷詰め出荷、冷蔵出荷することにより品質は改善され、市場からの信用を得ることができたと思います。

(4) 規模拡大に伴う労力の確保

夫婦 2 人と臨時 1 人で作業を行っていましたが、規模拡大に伴い、常時雇用 1 人と臨時雇用 2 ～ 3 人と増員して労力を確保することができました。

前回プラン目標の達成状況

項目	計画	H 2 7 実績
栽培面積	H24 : 780 a → H27 : 1000 a	1000 a
初夏どり	H24 : 180 a → H27 : 250 a	300 a
秋冬どり	H24 : 600 a → H27 : 750 a	700 a
常時雇用	H24 : 0 名 → H27 : 2 名 (参考 : 臨時雇用 1 名)	1 名 (参考 : 臨時雇用 2 ～ 3 名)

2 今後の展望

(1) 更なる規模拡大と生産量の増大による経営の安定化

プランに取り組み、品質改善と出荷量の増大を行った結果、市場・消費者の信用も得ることができたと思います。

現在、市場から更に出荷量増を要望されています。市場要望に応えるため、栽培面積を拡大し出荷量を拡大することにより、経営の安定化を行いたいと考えます。

(2) 機械導入による効率的な農作業の実施と過重労働の改善

特に、秋冬どり作型の作付時期である7月から9月については、播種、育苗管理、定植準備、定植、追肥・土寄せ、防除等の作業が集中します。10月から収穫を開始し4月まで連続して収穫しようとする、どうしてもこの時期に作業が集中します。現在の機械装備で、何とか作業を行っていますが、作業が集中する時期は、早朝から日の入り後まで作業が続き、食事と睡眠の時間以外は無のような状況にあり、限界を感じています。このような中で規模拡大を計画する訳ですが、機械類の能力アップを行い、作業の効率化・省力化により労働時間の適正化を行った上で規模拡大する必要があると思います。

(3) 遊休農地を活用と地域雇用による経営規模の更なる拡大

規模拡大にあたっては、町農業委員会を通じて町内の遊休農地を中心として確保していきたいと思います。また、規模拡大に伴い、更に地域の方を雇用し労力を確保したいと思います。

3 農業経営の現状と将来計画

(1) 栽培面積の推移

単位：アール

品目・作型	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
ブロッコリー	700	780	980	950	1000	1000	1000	1050	1100	1200	1200
初夏穫り	150	180	200	200	300	300	300	300	300	350	350
秋冬穫り	550	600	780	750	700	700	700	750	800	850	850
緑肥	300	350	400	500	500	600	600	650	700	800	800
ソルゴー	200	200	200	250	250	300	300	300	350	400	400
葉ダイコン	100	150	200	250	250	300	300	350	350	400	400
合計	1000	1130	1380	1450	1500	1600	1600	1700	1800	2000	2000

(2) 労働力の現状

区分	現 状	規模拡大後	備 考
本人	330日	300日	
妻	330日	300日	
雇用	3～4名	4～6名	
常時	1名(250日)	2名	
臨時	2～3名 (3～4時間/日)	3～4名 (3～5時間/日)	出荷調製・播種作業等

(3) 栽培体系

作型	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
初夏穫り	× ——— × 収穫								○ ——— △ 播種			
秋冬穫り			○=△ 播種 定植			× ——— × 収穫						
秋冬穫り			○ ——— △ 播種		○ ——— △ 定植		× ——— × 収穫					
秋冬穫り				○ ——— △ 播種		△ ——— △ 定植				× ——— × 収穫		
春穫り					○ ——— △ 播種		△ ——— △ 定植					× 収穫

4 農業経営の課題と改善内容

(1) 機械導入による効率的な作付の実施

前述のとおり、7月から9月にかけては播種、育苗管理、定植準備、定植、追肥・土寄せ、防除等の作業が集中し、現在の機械装備では労力面でかなり負担がかかっており、また、これ以上の規模拡大は不可能な状態です。また、降雨が続く等の天候不順があれば、適期管理ができず作業が遅れてしまいます。一旦管理が遅れてしまうと、取り戻すのに一苦労します。どうにもならず、結果、一部作業を省略してしまわなければならないこともあります。

平成28年秋季の天候不順や台風の到来により、定植、追肥土寄せ等の肥培管理や病虫害防除の遅れ等から、収量・品質等満足のものではありませんでした。作業の遅れ、省略は、収量・品質に大きく影響していることは否めません。好天日に効率的な作業を行い生産を安定

させる必要があります。

よって、効率的に作業を行うため、トラクター（64馬力）、乗用管理機（防除機）、乗用中耕作業管理機を導入し、効率的に作付・管理作業を行い、同時に更に規模拡大を行いたいと考えます。

トラクター（64ps）を導入し、荒起こし、碎土耕耘、残渣の片付け等を行い、現在所有のトラクター（30ps）については、硬盤破碎、肥料散布、土壌処理農薬散布等の作業を中心に使用し、各種アタッチの取り替えの手間を無くすことで効率的な作業が行えます。

乗用管理機（防除機）を導入し、面積の広いほ場を中心に使用し、現在所有の動力噴霧器は小面積のほ場を中心に防除を行うことで効率的に防除作業が行えます。

乗用中耕作業管理機を導入し、同様に大面積のほ場を中心に使用し、現在所有の管理機については、小面積のほ場を中心に使用することで効率的に中耕培土の作業が行えます。

特に秋季の台風については、毎年のように被害が心配される場所です。台風時には緊急的に短期間で被害対策の作業をする必要があります。事前の対策として倒伏防止のための土寄せをしますし、事後の対策として病気の発生を防ぐため防除を行いますので、早急に対応することが可能となり、被害の軽減に大変役立つと思います。

ほ場での機械による管理作業については、私、妻、常時雇用1名の3名が全ての機械についてオペレーターとして作業可能ですので、たいへん効率的に作業が行えると思います。

(2) 雇用労力の増加による過重労働の改善

先にも述べましたように、繁忙期についてはかなりの過重労働となっているのが実態です。機械導入により作業の効率化を図ることも重要ですが、全体的に労力が不足していると思います。現在、私、妻、常時雇用人の3名でほ場作業にあたっていますが、もう1名常時雇用人を増やして労働力の確保し過重労働の改善を行いたいと思います。

(3) 規模拡大による経営の安定化

機械導入による効率化と雇用の増加による労力改善をすることで、更に規模拡大できると同時に安定した栽培が行えると思います。

また、栽培を安定させることで、計画的に出荷することが可能となり、規模拡大により出荷量も増加し、安定的な出荷が可能となり、市場・消費者の信用も高まり有利販売が可能になるものと思います。

5 事業による効果と地域への波及効果

(1) 規模拡大による経営の安定

栽培面積の拡大により出荷量も増加すること、効率的な栽培管理作業により出荷が安定化することにより、市場からの要望等にも対応でき、有利販売により販売額が向上し経営が安定します。

(2) 地域雇用の創出

現在、夫婦2人と常時雇用1人で栽培管理作業を行い、出荷調整時には臨時雇用2～3人を

加えて作業にあっていますが、規模拡大に伴う作業量の増加から、常時雇用を 2 人(H29 : 1 名、H30 に 1 名追加予定)、臨時雇用を 3 ~ 5 人(ピーク時)と現在より増員したいと考えています。

(3) 遊休農地対策

町農業委員会を通じて遊休農地を中心に農地を確保してきましたが、更に規模拡大をするに当たっても同様にしていきたいと思えます。

近年、地域の特産品であるスイカを中心に、ハウス建設を行い面積的に集約化された経営となってきました。それに伴い露地畑の活用がされず、持て余しておられる農家もおられるようです。実際、私に借りてもらえないかという相談も年々増えてきています。

可能な限り借受けブロッコリーを増反してきた訳ですが、規模拡大するにあたって、これらの農地を借受け、少しでも遊休化するのを未然に防ぎたいと思えます。

(4) 地域農業の後継者育成

規模拡大に伴い雇用を増やすわけですが、農業を教えて地域農業の後継者を育てられたら、と思えます。

雇用しながら農業を学んでもらい、数年したら独立して私と同じような経営を行うというように、地域の露地野菜経営のモデルとなり、地域の担い手を増やせたら良いと思えます。

そうすれば、遊休農地も減少するでしょうし、また未然に防ぐことができ、地域農業も活性化していくと思えます。

6 年次別支援事業の計画

内容	30年	31年	32年	実施主体、関係機関
トラクターの導入	◎			本人、町、県
乗用管理機（防除）の導入		◎		本人、町、県
乗用中耕作業機管理機の導入			◎	本人、町、県
収量・品質の向上	○	○	○	本人、普及所
規模拡大（遊休農地の活用）	○	○	○	本人、農業委員会
雇用の拡大	○	○	○	本人
栽培技術研修の実施・参加	○	○	○	本人、資材業者、市場、普及所
法人化の検討			○	本人、農業会議

◎は補助対象事業

7 支援事業の内容

項目	規格	事業費(税抜き)	負担区分
トラクター 一式 (本体、ロータリー他)	ヤンマー YT463 松山 SKL2200D 他	8,915,000	県：1/2 町：1/6 本人：1/3
乗用管理機（防除機）一式	やまびこ RVH650 他	4,870,000	
乗用中耕作業管理機 一式 (本体、ロータリーカルチ)	ヤンマー GK14 松山 RM212	1,996,000	
計		15,781,000	

8 年次別事業費等

年度	内容	事業費 (税込)	事業費 (税抜)	負担区分(税抜)			事業主体 (税込)
				県	町	事業主体	
30年	トラクター	9,628,200	8,915,000	4,457,500	1,485,833	2,971,667	3,684,867
31年	乗用管理機（防除機）	5,259,600	4,870,000	2,435,000	811,666	1,623,334	2,012,934
32年	乗用中耕作業管理機	2,155,680	1,996,000	998,000	332,666	665,334	825,014
計		17,043,480	15,781,000	7,890,500	2,630,165	5,260,335	6,522,815